国宝 当麻寺西塔保存修理事業

― 相輪編 ―

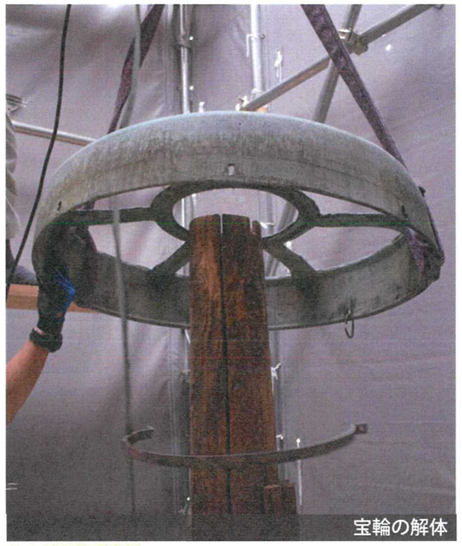
国宝当麻寺西塔水煙　南北方向東面（拓本）

●相輪の解体と重量

平成 29 年 7 月と 10 月の２度にわけて、屋根から相輪を下ろしました。相輪は心柱の上から落とし込んで取付けていますので、**宝珠**から順番に、上に抜いて解体します。

解体後に重量を測定しました。1 番重たい**露盤**が216kg、**水煙**は 1 枚が40kg 前後、**宝輪**はすべて 30kg 以上あり、総重量はおよそ 1t でした。その多くは屋根にのる露盤に荷重がかかっています。

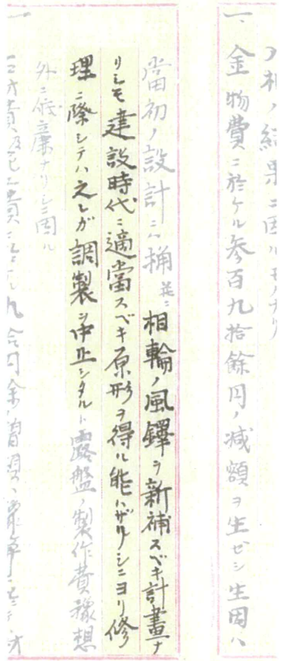
水煙の解体



宝輪の解体

相輪解体時測定重量　(kg)

名称		重量
宝珠		6.8
竜車		8.0
最頂部檫		21.1
水煙	東西	45.3
	南北	38.6
檫管	砲弾型	26.4
	下から八	24.3
	下から七	17.6
	下から六	21.3
	下から五	23.8
	下から四	22.8
	下から三	19.8
	下から二	24.7
宝輪	下から一	49.5
	下から八	32.7
	下から七	39.6
	下から六	37.9
	下から五	41.4
	下から四	33.6
	下から三	33.5
	下から二	32.5
	下から一	44.2
受花		51.1
伏鉢		77.0
露盤(天蓋含む)		216.4
合計		989.9kg



一、金物費ニ於ケル参百九拾餘円ノ減額ヲ生ゼシ生因ハ當初ノ設計ニハ桷并ニ相輪ノ風鐸ヲ新補スベキ計畫ナリシモ建設時代ニ適當スベキ原形ヲ得ル能ワザリシニヨリ修理ニ際シテハ之レガ調製ヲ中止シタルト露盤ノ製作費豫想外ニ低廉ナリシニ因ル

●西塔の風鐸（ふうたく）

東塔の宝輪は、**風鐸**と呼ばれる鈴がついています。

西塔の水煙と宝輪には**風鐸**を取り付けるための穴と、吊輪（つりわ）が残っていますが、残念ながら**風鐸**はありません。

大正修理終了後の『修繕工事予算精算対照表』によると、**風鐸**を新しく造ろうと計画したが建立当初の形がわからないため中止したと書かれています。

東塔の風鐸

西塔の宝輪に残る穴と吊輪

今回の保存修理工事では、相輪を修理のため屋根から下ろすとともに、綿密な調査も行っています。調査中のため、いつ頃の仕事かは現段階では断定できませんが、相輪に鍍金（ときん）が施されていることがわかりました。保存修理工事という千載一遇の機会に綿密な調査を行い、建物に関する新たな発見をするのも保存修理工事の醍醐味の一つです。

奈良県教育委員会事務局文化財保存事務所

〒630-8502　奈良市登大路町 30　TEL: 0742-27-9865　FAX: 0742-27-5386

●相輪とは

三重塔や五重塔の屋根の上には、相輪とよばれる飾りがあります。塔の中央にたつ心柱は屋根の上に出ており、そこに相輪ははめられています。

相輪は８種類の部材からなり、下から**露盤、伏鉢、受花、宝輪、水煙、竜車、宝珠**と呼ばれ、各部材を**檫管**がつないでいます。

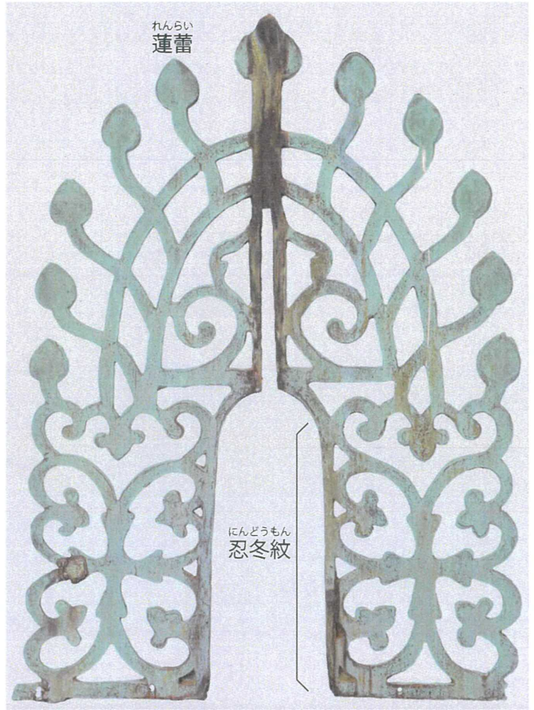
相輪の長さは古い塔ほど建物に対する比率が大きいといわれており、法隆寺五重塔（飛鳥時代）や薬師寺東塔（奈良時代）は総高さのおよそ３分の１が相輪です。

●西塔の相輪

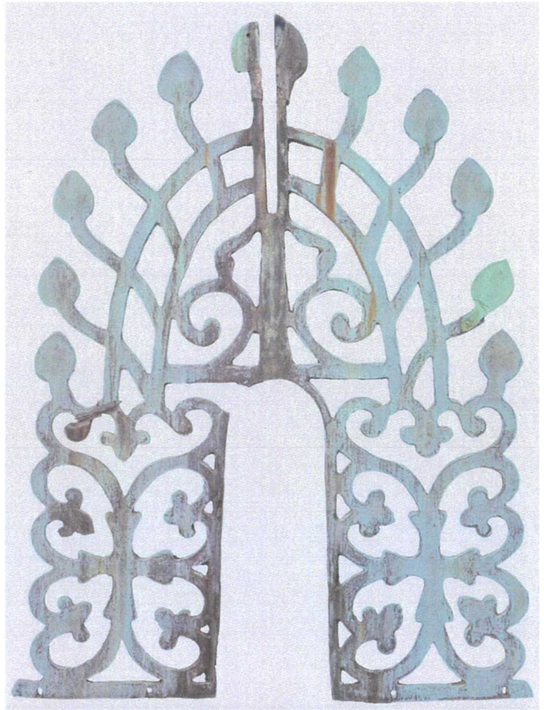
西塔の相輪は型に材料を流し込んで作る鋳造という方法で造られており、**水煙**と**宝輪**に特徴があります。

水煙は蓮蕾と忍冬紋のすぐれた意匠で、２枚を十字に組み砲弾型の**檫管**に上から取り付けています。**宝輪**は**九輪**とも呼ばれ一般的には９つですが、當麻寺の両塔は８つで非常にめずらしいです。

西塔の相輪は長さ 7.74mで、塔総高さ 24.40mのおよそ３分の１です。



水煙南北方向西面


水煙東西方向北面

●相輪の造られた時期

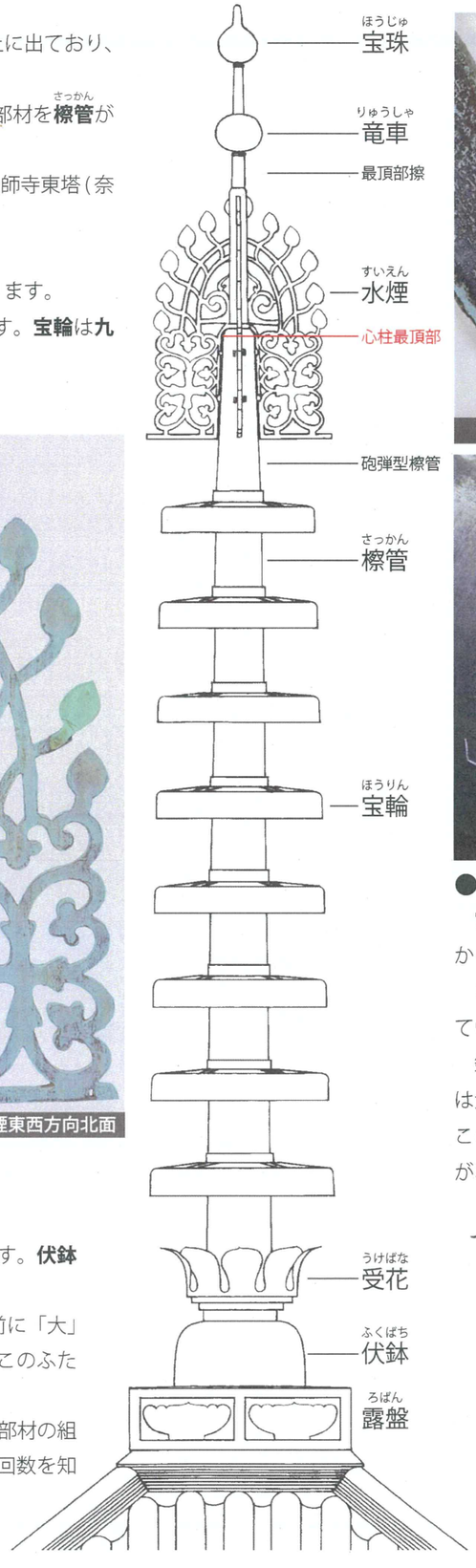
今回の修理に際し相輪の造られた時期を調査しています。

水煙は意匠から建立当初のものと考えられています。**露盤**は大正修理時に新しく造られたものです。**伏鉢**には明和４年（1767）の銘が刻まれており、明和修理時に造られたものと言われています。

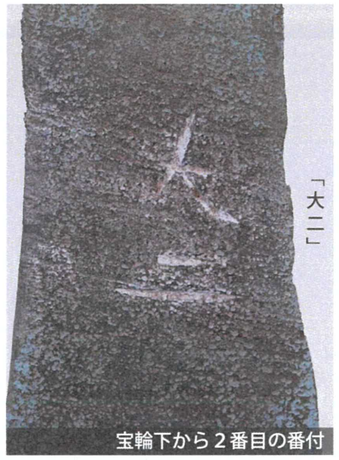
宝輪には下から順番に番号が刻まれており、１番下から６番目までは「大一」「大二」と番号の前に「大」と刻まれています。７番目と８番目は番号のみで、７番目には「明和四丁亥歳」と刻まれており、このふたつは明和修理時のものである可能性があります。その他に時代や年号は発見されていません。

さらに蛍光Ｘ線分析という非破壊の調査を行っています。これは相輪部材にＸ線を照射してその部材の組成を調べる調査です。この調査により、同じ時期に造られた部材の特定や、相輪を修理した時期や回数を知る手掛かりを得ることができます。

相輪は平成 30 年度中に調査、修理を終え、再び屋根に戻す予定です。

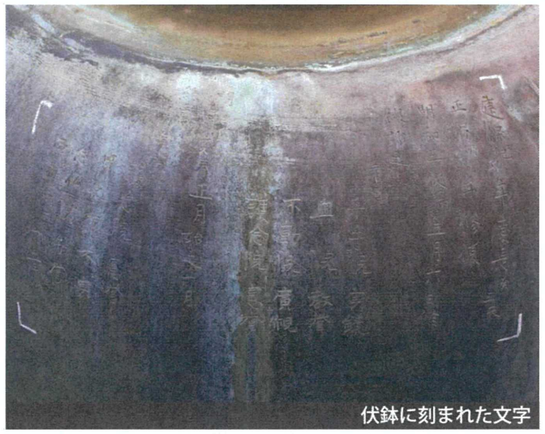


水煙に残る鍍金



宝輪下から２番目の番付

宝輪下から７番目の刻銘


伏鉢に刻まれた文字

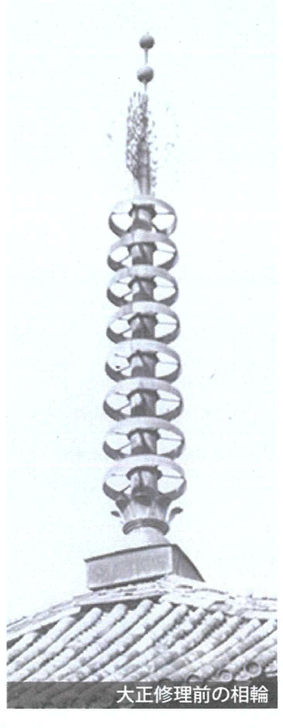
建保己卯年　慶長癸丑天
正保丙戌年修復
明和三從丙戌五月六日修
復始之
年預　千手院　実鏡
奥院　教誉
不動院　廣観
護念院　憲誉
明和丁亥春正月始之六月
終焉
年預　護念院　憲春
中之坊　本実
念仏院　弁誉
西南院　一音

●保管露盤について

當麻寺境内に古い**露盤**が保管されていました。大正修理前の写真から西塔で使われていたものと確認することができました。

この古い**露盤**は、半分ほどが鋳造で、残りは薄い銅板で補修されています。

鋳造部分には装飾がなく、鋲釘止めによって固定される取付け方は大安寺西塔（奈良時代後半）の出土露盤残欠にもみられる特徴で、この古い**露盤**の製作年代は建立時の平安前期までさかのぼる可能性があります。こちらも蛍光Ｘ線分析で調査を行っています。


大正修理前の相輪